

○今回は、合唱祭での話を載せます。

合唱祭の日を迎えました。この場で、学校の日直日誌に最近、先生たちが書いている感想をいくつか紹介したいと思います。

○合唱も一日一日、一回一回と上達していっているように感じます。合唱祭まであとわずかです。生徒たちの心が一つになればと思います。

○校内に歌声があふれ、いろいろな時間に合唱が聞こえてきます。コンクール形式ではない、西中の合唱祭のすばらしさを、育ててほしいと思います。

○インフルエンザで半数近くが欠席のクラスもありました。何とかこれを乗り越えて、本番では、少しでも満足のいく合唱ができればと思っています。

○合唱練習も大詰めになってきました。歌詞の意味を読み解き、自分たちの想いを伝えられる合唱を作っていきたいと思っています。

どのコメントからも、合唱することの良さや素晴らしさ、そして、懸命に歌う皆さんの姿に心動かされている様子がうかがえます。西中の全ての生徒が精一杯取り組んで、良い合唱をつくってほしいという先生たちの思いがあると私は感じました。

私も、今日のこの日を楽しみにしていました。

例年より早いインフルエンザの流行により、予定通りの練習ができなかった学年や学級もあると思いますが、新人戦後の2週間余り、毎日、皆さんの歌声が学校のあちこちから響いてきます。西中の素晴らしい伝統が、確実に引き継がれると実感しています。

私は、**学年や学級で取り組む合唱は協力することの素晴らしさの表現**だと思っています。

一人ひとりの声を合わせて1つのハーモニーをつくる、一人ひとりの声に違いがあるからこそ高い声・低い声、男子の声・女子の声と、それぞれに合ったパートを歌って、それが一つに合わさって美しいハーモニーを生み出す、それが合唱の世界だと思っています。

集団の中には、いろんな人間がいますし、一人ひとり、ものの考え方も違います。歌うこと一つとっても、すごく好きな人・得意な人もいれば、そうでない人もいます。それが当たり前です。でも、「良い合唱をつくる」その一点のために、全員が協力する・・・このことに大きな意味があると思っています。

今日の合唱祭で、全ての学年、学級が、一人ひとり違っていることの良さを生かして、心合わせて、歌う・・・そんな姿を期待しています。